

令和8年春号

山口大学教育学部

附属光義務教育学校



研究だより



well-beingにつながる学び

Ⅱ期 ～自ら課題を見出し、よりよく解決・表現する～

山口大学教育学部附属光義務教育学校として初めての開催となった教育研究発表大会では多くの方々に御参会いただき、学び多き充実した一日となりました。御参会くださった皆様に心より感謝申し上げます。

本学園の研究主題「well-beingにつながる学び」を実現するために、R7年度（Ⅱ期）は、「自ら課題を見出し、よりよく解決・表現する」を副題に掲げ、研究Ⅰ期で子どもが獲得・発揮した「エージェンシー」をさらに進化させ、課題発見力と課題解決力を育むことを目指しました。

これらの力を育むために、研究Ⅱ期では、①教科等の本質に迫る課題の提示、②子どもによる【4つの学習活動】の選択、③子どもが【学習活動を振り返る時間の設定】の3つの手立てを行うことにしました。①では、各教科等の「文化」に向かうきっかけとしてのパフォーマンス課題の設定。②では、「ためし・さぐり・みがき・つなぎ」の4つの学習活動の導入。③では、学習方略（どのように学んだか、選択した学習活動はどうだったか）、学習内容（何を学んだか）などの自己省察を意識しながら、子どもと共に創る授業、well-beingにつながる学びを追究しています。今回の研究だよりでは、研究発表大会当日の各教科等の授業実践についてお伝えします。

【国語科】

物語の魅力を伝える読み手になろう ～『スワンレイクのほとり』～

4年 大塚 祐亮

単元末に「自分の捉えた作品の魅力」について討論する場を設定しました。討論に向けて、子どもたち自身が問いを考え、学習計画を立て、本時では、「面白い表現や例え方」について話し合いました。「さぐり」の時間には、学習の進め方を自分で選び、一人で考えたり、友達と協力したりして課題に取り組む姿が見られました。「つなぎ」の時間では、自分とは異なる考えに納得したり、新たな捉えとして自分の考えと比べたりしながら話し合う姿が見られました。



好きなものを紹介する文章を書こう ～『「鳥獣戯画」を読む』～

6年 市川 景一郎

自分の好きなもののよさを相手に伝えるには、どのような文章を書けばよいか、その問いのヒントを教材文に求め、読み進めました。本時では、以前まで興味がなかった「鳥獣戯画」について知りたいと思わせる筆者の書き方の工夫を捉えようと、各々が「ここがポイントではないか」という点に着目し、教材文を読み込んでいました。自分の気づきを教科書やノートに記述しながら、他の人の考えが気になると移動して交流し、考えを「つなぎ」ました。



その小説ならではの魅力を伝えられる読み手になろう ～『少年の日の思い出』～

7年 中島 大輝

本作品の魅力について、各自が作成したPOPをもとに語り合う場を設定しました。登場人物同士の関係性や作品の構造など、様々な視点から子ども自身が立てた問いについて考えを深めていく中で、各自が自分なりに本作品の魅力をつかんでいきました。本時では、魅力を語り合う中で、「POPのこの言葉にはどのような意味が込められているのか」など、言葉選びに関する質問が交わされ、捉えた魅力をより分かりやすく伝えるにはどうすればよいか思案する姿が見られました。



言葉で伝える技術

～『君は「最後の晩餐」を知っているか』～

8年 作花 美郷

説明的文章における筆者の工夫を読み取り、自身の文章に生かす活動をしました。「美術作品の魅力を伝える」というテーマで文章を書く中で、適切な情報の取捨選択や表現の方法について考えを深めました。本時では、互いの文章を読み合い、観点を明確にして評価する「ためし」の活動を行いました。他者の文章を読むことで、よりよく表現するために必要な条件を学んだり、自分の文章になかった視点に気付いたりする「つなぎ」の姿が見られました。



【社会科】

火事から暮らしを守る ～暮らしを守る～

3年 千々松 哲大

単元を通して、「なぜ火事による被害は、少なくなっているのか」について追究したことをまとめ、それを交流する活動を設定しました。子どもは、予防対策や緊急時の対応などといった活動、消防署や消防団などといった機関に着目しながら、火事による被害が減少している要因について追究しました。本時では、『つなぎ』に向けて、もっと『みがき』たい」という意見から、教科書や副読本に加え、書籍やWEBサイトなどを活用しながら追究する姿が見られました。



世界の諸地域「北アメリカ州」 ～経済大国アメリカの葛藤～

7年 岡村 拓哉

単元を通して、アメリカ合衆国の課題を見だし、追究する活動を設定しました。本時では、「アメリカ合衆国はこれからも経済成長を続けることができるのか」という問いについて、これまでの学びや知識を生かして、話し合いました。話し合いを通して、経済成長に必要な要因を振り返り、持続可能性に注目して考えることができました。また、経済成長と環境保全の両立など、これからの経済活動や開発について考えを深める姿が見られました。



近代国家の歩み ～江戸時代を終わらせたのは何か～

8年 池田 幹太

本単元では、「江戸時代を終わらせたのは何か」を問い直す活動を通して、近世から近代への転換を構造的に捉えました。本時では、「江戸幕府は存続し得たのか」という可能論の視点から時代を比較・検討することで、安定を支えていた統治構造そのものが末期には矛盾を抱えていたことに気付き、江戸と明治の連続性と断絶を多面的に捉えながら、日本社会の転換点の発生要因について考えを深める姿が見られました。



6～9年生 合唱の様子



【算数・数学科】

紙テープでばいばい ～かけ算(2)～

2年 山本 拓実

「どうやって解けましたか？」という本質的な課題を継続して捉えながら、倍の考えのよさを実感することを目標に単元を進めていきました。本時では、1～9cmの紙テープを使って12cmの紙テープを作る活動の場を設定しました。その中で、1番長い9cmのテープと3cmのテープを組み合わせた子どもや6cmの2倍の考えを使っている子どもなど多様な考えが見られました。「みがき」では、36cmのテープを作り、12cmの3倍でも作れることに気付きました。



どれが1番速い？ ～比例と反比例～

6年 末弘 成孝

単元を通して、伴って変わる二つの数量とその関係に着目し、表・式・グラフを用いて、比例の特徴について理解を深めていきました。本時では、3台の自動車の速さを、二つの比例のグラフと表から比較することができる活動を設定しました。子どもたちは、比例の関係を式に表して求めたり、グラフにかき込んで傾きを比べたりしました。また、表中のきまった数に注目して考える姿も見られ、自分の得意な方法で主体的に答えを導くことができました。



計算処理能力を高めよう！ ～データの整理とその活用・比較～

7年 藤井 龍太郎

1次方程式の計算技能向上をめざし、5分間で解けた問題数とタイムを3回記録し、データ分析に取り組みました。複数の視点で比較する良さに気付き、多くの子どもが「解いた問題数が多くなった」「正答率もあがった」と分析する中で、新たな結論に気付く子どもも見られました。「スピードが上がると正答率も上がるのか」などの疑問から分析を深め、自ら課題を見つけて探究しようとする姿が見られました。



相似な図形

9年 吉村 直樹

子どもは、単元を通して図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解し、それを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめる活動をしてきました。本時では、基本的な立体についての相似の意味を理解するとともに、各々が制作した相似な立体や日常にある相似な立体を用いて相似比と面積比及び体積比との関係について考察する場を設定しました。そうすることで、見いだした関係から、相似な図形の性質を具体的な場面で活用していこうとする姿が見られました。



【理科】

見ただ目で判断するのは危ない！物の重さを科学していく！ ～ものの重さ～

3年 森 大樹

物の重さにおいて、「形を変える前と変えた後で重さは変わるのか」を解決する場を設定しました。各班で実験計画を考え、天秤やはかりを使って調べたり、結果を表にまとめたりしながら、問題解決していました。その中で、結果の共通点からいえるきまりは何かを考察し合い、「形を変えても重さは変わらない」ことを見いだしていました。また、同じ物の重さでも、各班でわずかな誤差があることにも目を向け、その原因を納得いくまで追究しようとする姿も見られました。



電流がつくる磁石って何？ ～電磁石の性質～

5年 末花 昌之

毎回の授業の冒頭で、科学的に解決する視点（実証性・再現性・客観性を子どもの姿で具体的に示したものを）を確認し、授業の最後に振り返りをするを積み重ねてきました。この取り組みを通して、教師と子どもが目指す姿を共有することができました。この視点を定期的に子どもと見直しをすることで、よりよいものにすることができました。当日、子どもたちは、科学的に解決する視点をもちながら、電磁石の強さを強くする条件について追究する姿が見られました。



仕事とエネルギー ～物体のもつエネルギー～

9年 米村 崇

物体のもつエネルギーと、高さ・質量・速さには、どのような関係があるのかについて、仮説を立て、自分たちが考えた実験方法で検証する場面を設定しました。これまでの学びを生かし、実験中に実験方法を見直しながら、自分たちの仮説を確かめていました。得られた結果を表やグラフにすることで、物体のもつエネルギーが高さや質量に比例することを見いだしていました。振り返りでは、実験の方法や結果のまとめ方などを見直す姿が見られました。



児童・生徒発表の様子

